

2011年5月7日  
竜ヶ崎市・音楽愛好会「ゲヴァント・ハウス」

特別企画「巨匠カール・ベームの思い出」

当会は元日本グラモフォンのプロデューサー、乙黒正昭氏を招き、「巨匠カール・ベームの思い出」と題する講演とCDコンサートを開催します。

1960年～1970年代はクラシック音楽業界の黄金時代でした。カラヤン、ベーム、バーンスタインの名盤が次々とリリースされました。その中核を成したのがドイツグラモフォンのいわゆる「イエローレーベル」です。

乙黒さんは当時、ドイツグラモフォンの日本支社である日本グラモフォンでエンジニアとしてレコード・音楽テープの制作にかかわる一方、マーケティング・プロデューサーとして、所属アーティストの広報活動に尽力されました。

カール・ベームとは個人的にも親交が深く、1975年、ウィーンフィルとの来日の際にはベームと生活を共にしてバックアップしました。

コンサートの終演後、感激した聴衆は舞台に押し寄せ、それに笑顔で応えるベーム…。コンサートは歴史的な成功を収めました。

ベームはコンサート大成功の陰の功労者である乙黒正昭氏と福原信夫氏に感謝するため、二人をオーストリアの自宅（グラーツ）に招待しました。

講演、CDコンサートの概要は下記の通りです。

記

日時：6月4日（土）14時～16時30分

場所：竜ヶ崎市・ショッピングセンター「リブラ竜ヶ崎」2F・旧映画館  
（竜ヶ崎駅から徒歩5分）

講演内容：第一部 ベームとカラヤンによる新録音合戦で生まれた「モツレク」  
（予定） 「トリスタンとイゾルデ」等の名盤

第二部 1975年、ウィーンフィルとの来日公演。  
名コンビによるライブならではの至福の名演の数々…  
芳醇の極致！シューベルトの「グレイト」

講師：乙黒正昭（元・日本グラモフォン、プロデューサー）

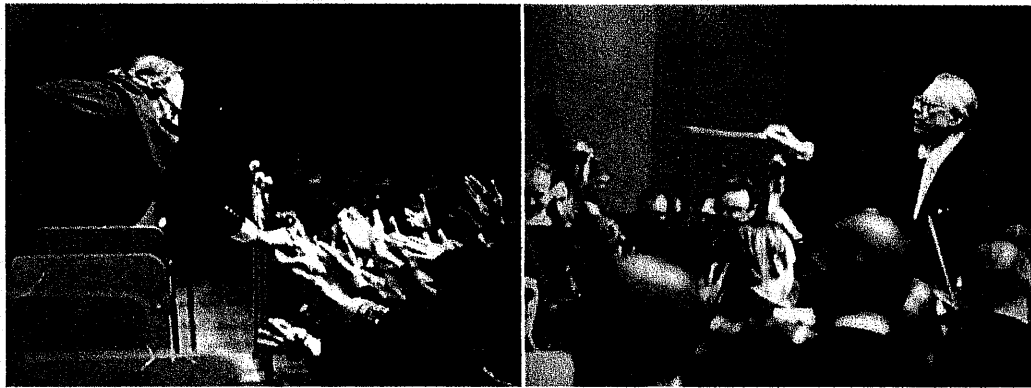
入場：無料

以上

## 乙黒正昭略歴

1962年東京電機大学卒業、同年4月日本グラモフォン（後ポルドールに社名変更）技術部録音課に入社。録音、カッティング業務及びオープンリール、カセット等テープコピー業務を行う。1968年技術室に移り社全体の音質に関する管理を行う。1970年マーケティング部クラシック・グループに移りグラモフォン、アルヒーフ等に関する企画製作、宣伝、発売業務を行う。以後マーケティング部洋楽販売推進、IMS（輸入盤業務）、ビデオ部を歴任。1984年ポルドール株式会社退職後、CBS/FOX社、クラレ社において映像業務そしてクラシック招聘会社ジャパンアーツでクラシックアーティスト招聘業務を行い、2003年同社退社。

社、在籍中より邦楽や民族音楽には大変に興味を持っていたため個人趣味として、ロシア、チェコ、ブルガリア民族音楽等を収録、また、2006年にはモンゴルの民族音楽、馬頭琴アンサンブル日本招聘、2012年には小学校の教科書でお馴染みの「スーホの白い馬」（語り：女優竹下景子—馬頭琴アンサンブル）の日本及びモンゴル公演を企画している。また、大学在学中から始めた趣味の尺八ではNHK邦楽技能者育成会第七期生卒で都山流尺八大師範。都内を中心に演奏活動を楽しんでいる。



1975年来日したベーム・ウィーンフィル。  
（乙黒正昭氏、撮影）

ベーム/ウィーン・フィル リハーサル

3月15日 NHKホール

ベートーヴェン：交響曲第7番&第4番

ブラームス：交響曲第1番

3月16日 NHKホール

ベートーヴェン：交響曲第4番

ブラームス：交響曲第1番

ストラヴィンスキー：「火の鳥」

君が代 オーストリア国歌

J・シュトラウス：「美しき碧きドナウ」

3月17日 NHKホール

ベートーヴェン：レオノーレ序曲 第3番

ストラヴィンスキー：「火の鳥」

ブラームス：交響曲第1番

3月18日 芝高輪伊皿子N響練習場

ワーグナー：「マイスタージンガー」

シューベルト：交響曲第8番「未完成」

3月19日 NHKホール

ワーグナー：「マイスタージンガー」

シューベルト：交響曲第8番「未完成」 & 交響曲第7番

3月25日 NHKホール

J・シュトラウス：

常動曲 ピッツィカート・ポルカ 「こうもり」序曲

トリッチ・トラッチ・ポルカ

モーツァルト：交響曲第41番「ジュピター」

J・シュトラウス：

南国のばら アンネン・ポルカ 皇帝円舞曲

NHKホール 10：00～14：00

伊皿子練習場 13：00～15：00

# カール・ベーム没後

# 30周年

数々の来日公演や多くの名盤で、日本のクラシック・ファンの圧倒的な人気を誇ったオーストリアの指揮者カール・ベーム。



※写真提供：乙黒氏

講演タイトル「没後30年「巨匠カール・ベーム」

第一部 (14:00~15:00)

プロローグ：ベーム没後30年・追悼

モーツァルト「レクイエム」第1・2・8曲 約13分  
(1975年モーツァルト週間・放送ライヴ)

第一部：グラモフォーンとは

ベートーベン「英雄」第一楽章より 約10分  
(1962年発売、グラモフォンCD)

ブルックナー「ロマンティック」第一楽章より 約10分  
(1974年発売、ロンドンCD)

●お話の時間は25分ほどになります。

休憩10分

第二部 (15:10~16:20) 熱狂!伝説の1975年・東京ライヴ

「レオノーレ」「火の鳥」リハーサルより 約10分  
(ご提供の未公開音源)

シューベルト「グレイト」第1、4楽章 (3/18) 約28分

ワーグナー「ニュルンベルグの名歌手」前奏曲(3/18)アンコール) 約12分

●お話の時間は20分ほどになります。

## ■カール・ベームの生涯

- 1894年 8月28日、オーストリアのグラーツに生まれる。
- 1917年 グラーツ市立歌劇場でデビュー。
- 1921年 ワルター・クレーンゲルにより、バイエルン国立歌劇場の指揮者に就任。
- 1927年 タルムシュタット市立歌劇場音楽監督に就任。
- 1931年 ハンブルク国立歌劇場音楽監督に就任。
- 1933年 ウィーン国立歌劇場にデビュー。ウィーン・フィル定期に初登場。
- 1934年 ドレスデン国立歌劇場総監督に就任。
- 1935年 リンクトラフスの「無回な恋」の世界初演を指揮。
- 1938年 日・シュトラスの「タフネ」の世界初演を指揮。
- 1943年 ウィーン国立歌劇場総監督に就任。
- 1945年 「オーストリア音楽監督」の称号を受ける。ドイツ・オーストリア敗戦後に連合軍から演奏活動停止命令を受ける(1947年に復帰)。
- 1954年 ウィーン国立歌劇場総監督に再び就任。
- 1955年 11月、再建されたウィーン国立歌劇場で記念公演の「ライプニッツ」を指揮。
- 1962年 バイロイト音楽祭に初登場。(トリストランとイゾルデ)を指揮。
- 1963年 ベルリン・ドイツ・オペラと初来日。(ライプニッツ)と「フィガロの結婚」(第9)を指揮。
- 1964年 「オーストリア(共和国)音楽監督」の称号を授けられる。
- 1967年 ウィーン・フィルから創立25周年を記念し、「名譽指揮者」の称号を授けられる。
- 1975年 ウィーン・フィルと来日。
- 1977年 ウィーン・フィルと2回目の来日。
- 1980年 ウィーン国立歌劇場の来日公演で「フィガロの結婚」と「ナクソス島のアリアドネ」を指揮。合わせて昭和女子大学人見記念講堂でのウィーン・フィルの公演も指揮(10月6日。ウィーン・フィルをベームが指揮した最後の公演となった)。
- 1981年 8月14日、サルツブルクで死去。